

令和7年度 第2回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月23日（木） 10時00分から11時05分まで
- 2 開催場所 曳馬中学校 校長室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、鈴木 秀住、平間 良明、上原 敬浩、
小粥 達也、永井 基紀、高橋 優夫
- 4 欠席委員 中川 恒子
- 5 オブザーバー 野川 敬司（曳馬協働センター）
- 6 学 校 上田 高之（校長）、山下 剛功（教頭・CS担当）、
木村 恵美（主幹教諭）、今田 明子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 今田 明子
- 9 議長の選出 司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、上原委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - (1) 休日の部活動の地域展開について
 - (2) 不登校生徒の対応について
- 11 会議記録 司会の教頭山下から、委員総数8人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - (1) 休日の部活動の地域展開について 議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき休日の部活動の地域展開について説明があり、委員からは、以下の発言があった。
 - ・浜松市だけの指針か。指導者になる条件が厳しいので、登録者が出てくるのか不安。（芳次委員）
→浜松市は平日部活動を残そうという方針。練習や大会ができるようサポートしていく。（上田校長）
 - ・部活動を平日3日にして、部活のない日に教員は早く帰れるようになったか。せっかくの働き方改革なので、教員が書類仕事や家庭に使う時間を増やして欲しい。（小粥委員）
→職員室を見ていると早くなったと感じる。（山下教頭）
→朝練がなくなり、地域での旗振り、見守りにより出勤時間も1時間程度後ろ倒しできている。働き方改革は、教育の質の向上が目的でもある。不登校生徒への対応もそのひとつである。（上田校長）
 - ・部活動の活動時間は小学校も同様か。部活動の種類によっては、地域クラブ活動等の非営利団体という選択肢がなく、営利企業しか選択肢がない場合も考えられる。また、遠方に通わざるをえない可能性もある。家庭の事情であきらめざるをえない生徒が出てくるのではないかと懸念している。（野川センター長）
→現在、小学校の部活動自体がほぼなく、クラブの形がほとんどである。中学生も部活動ではなく、クラブチームに所属している生徒もいる。（上田校長）
→うまくなりたい、強くなりたい子の親は費用がかかってもクラブチームに入れると思う。（芳次委員）
→教員の負担軽減だけでなく、空いた時間で不登校生徒の家庭訪問や対応できなかった問

題に力を注ぐという方針でもある。その部分の発信もしないと、教員が楽になったという印象ばかりを与えてしまう。民生委員としては、部活動をしなくなった生徒が、どういう生活をするのか、地域に集まる等という別の問題が発生する可能性も否定できない。（秀住委員）

→活動時間を制限することで、ただ練習試合を長くやるのではなく、合同練習をおこなう等短い時間で効率の良い練習を目指してもらいたい。（上田校長）

- ・<指導者登録について>指導したい地域の希望は出せるか。指導者が多いところは他に割り振られてしまうのではと懸念している。（永井委員）

→その点はまだ固まっていない。（上田校長）

（2） 不登校生徒の対応について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき不登校生徒の対応について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・はじめから学校に行かなくていいという価値観を持つ保護者も出てきている。学校へ行くメリットを伝えていかないと安易に学校へ行かないという方へ流れてしまうのではと懸念している。（秀住委員）
- ・不登校支援のNPOの方と話す機会があった。不登校の子ども本人だけでなく保護者も含めたサポートが必要で、子どもだけに支援するのではなく、保護者向けのプログラムも必要になるそうだ。学校はあくまで子どもメインの支援になると思う。学校ではここまでという線引きも必要だと思う。（高橋委員）

その他報告事項等

・報告

夢育やらまいか事業進行状況について報告があった。（山下教頭）

・連絡事項

①80周年記念事業について（上田校長）

今後検討を進めていく。

②夏服のポロシャツ化について（上田校長）

令和9年度からの導入を予定している。

・今後の予定

第3回運営協議会：令和8年 2月19日（木）10:00～

以上